

低気圧と前線による大雨に伴う災害に係る
第7回災害対策本部員会議での知事の主な発言

1. 会議冒頭の発言

- 昨日、愛子内親王殿下の能登半島地震の復興状況等のご視察についてお取り止めとなったが、侍従長を通じて、天皇皇后両陛下と愛子内親王殿下からのお見舞いのお気持ちをお伝えいただいた。

天皇皇后両陛下と愛子内親王殿下は、今回の災害に深く心を痛めておられるとのことで、能登半島地震に加え、今回の大雨による災害で犠牲となった方々へのお悼みのお気持ちと、被災された方々へのお見舞いのお気持ちをお伝えいただいた。

また、災害対応に尽力いただいている方々へのお労いと励ましのお言葉をいただいた。

- 本日15時時点で、お亡くなりになられた方は8名となった。また、依然として行方不明者が2人、安否不明者が6人にのぼっており、引き続き、被害状況の把握、人命救助に全力を挙げてほしい。

- 昨日の夕方から本日の朝にかけて、
- ・ 輪島市門前町の七浦地区に通じる五十洲亀部田線、
 - ・ 輪島市滝又町に通じる滝又三井線、
 - ・ 輪島市街地から鶉入町までの輪島浦上線
- などを啓開し、緊急車両や地域の方々の通行を確保した。

これにより、孤立集落等は、昨日の46箇所から16箇所にまで大きく減少した。引き続き、一刻も早い孤立集落等の解消に向け、道路啓開を急いでほしい。

- 県の災害ボランティアバスについては、明日26日(木)は、募集定員を40人から105人に拡大し、派遣地区も輪島市の宅田第2仮設住宅に加え、門前地区の福祉施設、能登町柳田地区の被災家屋現場の3箇所にも拡大する。すでに定員に達しており、皆様の力強いご支援に感謝申し上げます。

昨夜、県、市町、社協、全国規模のNPOとの工程共有会議を初めて開催した。引き続き、ボランティアの更なる増員に向けた準備を進める。

さらに、被災地では一人でも多くのボランティアが必要とされていることから、県のボランティアバス以外にも、様々な形でボランティアに参加いただきたいと考えている。

被災者の方が自ら必要な支援のニーズを登録し、広くボランティアを募るマッチングサイト「スケット」もあるため、県のHPなどでもこうしたサイトを紹介する。

今回の豪雨からの一日も早い復旧のため、一人でも多くのボランティアの皆さまにお力をいただきたい。

- 浸水した家屋の感染症予防のためには、「清掃」と「乾燥」が最も重要である。

今後、ボランティアの方を含む多くの方々に泥出しなどの作業を行っていただくことになるが、作業にあたっては、十分に換気をしながら、

- ・ほこりから目や口を保護するため、ゴーグル・マスクの着用、
- ・清掃中の怪我の予防と感染症対策のため、手袋・底の厚い靴などの着用

をお願いしたい。

このほか、清掃後の屋内の消毒方法など、家屋への適切な対応についても県のHPに記載しているので、県の広報媒体を駆使して被災者の皆さんに周知を図ってほしい。

2. 会議最後の発言

- 道路啓開により、孤立集落の箇所が劇的に減少した。引き続き、道路・電気・上下水道・通信の一刻も早い復旧に向けて、全力をあげてほしい。
- 被災市町は地震との二重災害でマンパワーが不足している。他県の自治体からできるだけ多くの職員を派遣いただけるよう、国や全国知事会との調整を加速してほしい。
- ボランティアの拡大は待ったなしである。昨日から開始した工程共有会議等を通じて、専門ボランティア団体とも連携しながら、派遣地区・人員のさらなる拡大に向けて調整をお願いしたい。
- 今回の大雨災害は、能登半島地震から8か月余りしか経たない中で発生した極めて異例な複合災害である。このため、出来るだけ早く、国に対し、激甚災害への早期指定をはじめ、地震と一体的な手厚い支援を要望したいと考えている。